

第3回 第1部会における委員意見一覧

No.	部門	委員によるご意見
1	(基本目標：安全で、利便性の高いまち) 「防災」	<p>(徳久委員) 「防災」に関してはインフラの維持管理面が非常に大きいと思う。実際、橋梁などはかなり老朽化していると思うが、老朽インフラの維持管理等はどの部門に入るのか。区分の適切性は担当部署の判断に任せるが、一般的には「防災」のところに入ってくるイメージがある。</p> <p>【ご意見に対する回答】(事務局) 行政運営の「市有財産管理」に記載している。市有建築物の耐震改修は一定完了しており、災害対策のための改修というよりは、耐用年数に伴い改修していくという考え方である。しかし、インフラの維持管理については、「防災」の部門においても重要な項目であるため、記載について検討する。</p>
2	(基本目標：安全で、利便性の高いまち) 「防災」	<p>(徳久委員) 備蓄品などに関する事業者との連携や、幼稚園や保育施設の提供を受けて乳幼児を抱えている方のための避難所を設置するなど、さまざまな試みがある。今回の計画に関して、みんなで連携してやっていくということであれば、「市民、市民団体、事業者の主な取り組み」の内容が薄いと思うので、もう少し記載した方がよい。</p>
3	(基本目標：安全で、利便性の高いまち) 「防災」	<p>(岡田委員) 現在、枚方市では防災協力農地について、枚方市では現在指定をしていないが、寝屋川市など近隣市では何らかの特典を付けて指定している。都市農業を守る一つの取り組みということで「農業」の部門に記載されていると思うが、本来は農業ではなく防災としての取り組みのはずなので、掲載する部門を検討してほしい。</p>
4	(基本目標：安全で、利便性の高いまち) 「防災」	<p>(三輪敦子委員) 災害弱者への配慮はぜひ計画の中に入れてほしい。基本計画に「具体的な事業例」を記載しないと、一般的なことしか記載していない項目も出てくる。やはり、枚方らしさを出していくためには、「行政の主な取り組み」のところに「災害弱者への配慮の徹底」などを記載してほしい。</p>
5	(基本目標：安全で、利便性の高いまち) 「災害医療・保健」	<p>(三輪信哉委員) 「取り組みの方向」に「災害発生時から中長期にわたる医療・保健活動を展開する」とあるが、これはどういうイメージか。</p> <p>(新川部会長) 東日本大震災の例で言えば、少なくとも避難所での生活が2年から3年に及び、この間に心身ともに健康を損なうというケースがたくさんあった。心のケアも含めた保健衛生活動が、この間、非常に重要な役割を果たしている。</p> <p>【ご意見に対する回答】(事務局) 中長期的なスパンで精神的なことも対応していく必要があるということで記載しているが、もう少しわかりやすい表現になるよう検討する。</p>

No.	部門	委員によるご意見
6	(基本目標：安全で、利便性の高いまち) 「公共交通」	<p>(加藤副部長) 周辺にお住まいの市民が商業施設や病院等にアクセスするための「100円バス」の話があったと思う。これは、「安全で、利便性の高いまち」を実現するための一つの手段になると思うが、どこの部門に記載されているのか。</p> <p>【ご意見に対する回答】(事務局) 「課題」欄で「鉄道など利便性の高い交通環境を備えているが、さらなる公共交通の利便性の向上が重要」という課題設定はしているが、その対応として、行政の主な取り組みの具体的な事業例に「100円バス」は記載できていない。</p>
7	(基本目標：健やかに、生きがいを持って暮らせるまち) 「健康」「高齢者福祉」	<p>(岡田委員) 市民農園の記載がないが、例えば、認知症ケアによいということもあるので、「健康」とか「高齢者福祉」の部門に記載してもよいのではないか。</p> <p>(新川部長) 市民農園となると、多少「具体的な事業例」になってしまうかもしれないが、こういったことも想定した福祉とか、健康づくりがあってもいいのかもしれない。</p>
8	(基本目標：健やかに、生きがいを持って暮らせるまち) 「健康」「高齢者福祉」	<p>(三輪信哉委員) 例えば、「健康」では、病気になった場合の対策が列記されていて、受け皿を用意しているということはわかるが、「健康」の中には、みんなが生き生きと輝きながら毎日を過ごすことを支援するという仕組みも入れていくべきで、それは「スポーツ」だけではないと思う。</p> <p>また、「高齢者福祉」も同様で、認知症や要介護になった場合の記述が多いが、高齢者が健やかに生き生きと暮らせる社会をいかにつくっていくかという視点が欠落している。行政として、セーフティーネットを張り巡らしていくことは今後厳しくなるので、セーフティーネットを使わなくて済む仕組みに労力を割くべきではないか。</p> <p>予防医療の取り組みが充実すれば、医療費など税金の節約にもなる。実際、イギリスでは、食生活などを見直し、医療機関とも協力していくことで、随分と成果を挙げたという話もある。</p>
9	(基本目標：健やかに、生きがいを持って暮らせるまち) 「健康」	<p>(徳久委員) 最近、小学校で風邪予防の体操をやっていたり、高齢者が健康いきいき体操をやっていたりする地域は多い。厚労省も予防医療ということを積極的に推進しているが、この計画にはそうした視点が欠落している。「健康」のところにも予防医療に関する項目を立てておいた方がいいのではないか。行政としても保健師が指導にあたりたり、民間でも任意団体等がそうした指導や促進に向けた活動を行っていたりする場合もある。予防医療を促進しながら、もしリスクを負った場合にはセーフティーネットが用意されているという前向きな書き方に変えてはどうか。</p>
10	(基本目標：健やかに、生きがいを持って暮らせるまち) 「健康危機管理」	<p>(三輪信哉委員) エボラ出血熱のような非常に危険な感染症が増えていく中で、「取り組みの方向」には新型インフルエンザの記載しかない。このままの内容で十分なのか、少し危惧する。</p> <p>【ご意見に対する回答】(事務局) さまざまな新たな感染症が世界中で発症しているので、記載内容について検討する。</p>

No.	部門	委員によるご意見
11	(基本目標：健やかに、生きがいを持って暮らせるまち) 「生活福祉」	(宮原委員) 「市民、市民団体、事業者の主な取り組み」に「民生委員は、住民の見守りや相談事により生活困窮者を発見し、福祉事務所に連絡」とあるが、連絡するだけでいいというわけではないと思う。 また、民生委員の役割が、強制的に決めつけられているような文言になっているのが気になる。もっと簡潔に、「民生委員との連携を図る」といったような表現にいただいた方がよい。これは全部門でも言えることだと思う。
12	(基本目標：健やかに、生きがいを持って暮らせるまち) 「高齢者福祉」	(宮原委員) 認知症は高齢者だけでなく若年の方もいる。今の内容では高齢者のみを対象としており、認知症をひとくくりにした場合、どこか窮屈な気がする。
13	(基本目標：健やかに、生きがいを持って暮らせるまち) 「人権」「男女共同」	(三輪敦子委員) 「取り組みの方向」や「行政の主な取り組み」がこれだけではわかりにくいため、もう少し具体的に記載してほしい。例えば、配偶者暴力相談支援センターがあること自体は先進的なことだと思うが、そのワンストップ化などを「行政の主な取り組み」に記載していくことはできないか。実行計画にしか記載できないのかもしれないが、検討する必要があると思う。 (新川部会長) 「男女共同」についても、「行政の主な取り組み」には本来必要な支援や相談といった取り組みが抜けているのかもしれない。
14	(基本目標：健やかに、生きがいを持って暮らせるまち) 「人権」	(宮原委員) 「具体的な事業例」の「高齢者サポートセンターの運営」は地域包括支援センターのことだと思うが、これはここに記載すべき内容なのか。 【ご意見に対する回答】(事務局) 記載内容について調整する。
15	(基本目標：一人ひとりの成長を支え、豊かな心を育むまち) 「子育て」	(三輪敦子委員) 「行政の主な取り組み」に「ひとり親家庭等の自立支援」とあるが、これはひとり親家庭が経済的に自立していくということなのか。 【ご意見に対する回答】(事務局) もちろん経済的な面もあるが、家事等の支援も含む広い意味での支援を想定している。
16	(基本目標：一人ひとりの成長を支え、豊かな心を育むまち) 「子育て」	(三輪敦子委員) 「若者無業者(ニート)やひきこもり等の困難を抱える子ども・若者に対する支援の充実」と「ひとり親家庭等の自立支援」では状況が異なると思うので、ここは切り分けてもよいと思う。
17	(基本目標：一人ひとりの成長を支え、豊かな心を育むまち) 「子育て」	(三輪敦子委員) 枚方市が病児保育に取り組んでいるのであれば、その記述があってしかるべきだと考える。

No.	部門	委員によるご意見
18	(基本目標：一人ひとりの成長を支え、豊かな心を育むまち) 「子育て」	(三輪敦子委員) 「取り組みの方向」で「子どもの人権擁護の推進を図るため、児童虐待等の問題に対し、発生予防、早期発見、早期対応の取り組みを進めます」とあるが、「行政の主な取り組み」には「児童虐待防止体制の充実」という1行だけしか記載されていない。当事者が制度や体制等を知らないまま最悪の事態に陥るというケースもあるので、支援プログラムの実施など体制の充実以上の書き方が必要だと思う。
19	(基本目標：一人ひとりの成長を支え、豊かな心を育むまち) 「生涯学習」	(加藤副部長) 「図書館サービス推進事業」の指標として「図書館の利用者の割合（年度中に1回以上図書館資料を借りた利用者/人口）」とあるが年々減少している。ネット利用など今は図書館の使い方がかなり変わってきていて、高齢者の方でも、図書館で本を借りるのではなく、自分の研究のサポート、あるいはアドバイスを得る場所として活用している人もいますので、利用方法に応じて図書館の制度も変えていかなくてはならないと思う。 また、それに合わせた指標を設定していく必要があるのではないか。図書館を何のために使うのか、そこまで踏み込んで考えていくと指標も違ったものになると思う。この話は、図書館に限らず、すべての指標について当てはまる話である。 なお、現在、図書館は指定管理者制度で運営しているのか。 【ご意見に対する回答】（事務局） 現在は直営で運営している。ただし、分館のような生涯学習施設と一体となっている図書館については、指定管理者制度導入の準備を進めている。
20	(基本目標：一人ひとりの成長を支え、豊かな心を育むまち) 「文化芸術」	(徳久委員) 日本では、アマチュアの方がサークルをつくって芸術活動をしていることが多い。しかし、ここでは、大きなイベントや市が主催する展覧会等を行っている団体が想定されているように思う。先ほどの生きがいの話にもつながるが、今後、自分たちで日常的に芸術活動をやることで元気になっていくということもあり得ると思うが、そういった観点の記述がない。「芸術文化」と「健康」のどちらに入れるかは検討が必要だが、箱物ありきではなく、ソフト的な文化芸術活動を考えていくべきだろう。「行政の取り組み」としても、大きなイベントばかりに着目するのではなく、アマチュアサークルの発表の場として、生涯学習市民センターを使いやすくするなどの視点から考えてみてもよいのではないかと。
21	(基本目標：一人ひとりの成長を支え、豊かな心を育むまち) 「文化芸術」	(新川部長) 「取り組みの方向」で「文化芸術に対する市民の関心・理解を深める」とあるのに、「行政の主な取り組み」では「市民の文化芸術活動の支援」ととどまっておらず、行政の支援のあり方に記載が弱い印象がある。 情報化社会においては、生涯学習、文化芸術活動など、利用方法やアクセス方法など一人ひとりのスタイルが変わってきている。そういった大きな潮流を考えながら対応策を考えていかなければ、旧態依然とした計画となってしまう。
22	部門共通	(三輪敦子委員) 「対応」欄の「具体的な事業例」について、ここは私たちの議論すべき範囲に含まれるのか、それとも実行計画レベルの内容なので、そこまでは求められていないということか。 【ご意見に対する回答】（事務局） 「具体的な事業例」は、「行政の主な取り組み」をよりイメージしやすくするために記載している。基本的には、「課題」や「取り組みの方向」、また、「行政の主な取り組み」、「市民、市民団体、事業者の主な取り組み」欄を中心に議論いただきたい。

No.	部門	委員によるご意見
23	部門共通	<p>(三輪敦子委員) 「具体的な事業例」に関して、実行計画を作成する際にそれぞれ指標や達成目標を設定するのか。</p> <p>【ご意見に対する回答】(事務局) 基本計画に指標を掲載していくという方向性は持っているが、具体的な指標の表し方については、今後議論を進めていただく必要があると考える。基本計画の期間が12年間と長いスパンになるので、目標値を計画の中に示すのか、その場合、目標値が陳腐化しないかというようなことも含めて、今後、議論いただきたいと考えている。</p> <p>(新川部会長) 基本計画の指標、目標値の設定、計画の進捗管理、評価の手法などについては、今後、審議会の中で議論していくこととなる。</p>
24	部門共通	<p>(三輪信哉委員) 部門について、例えば「安全で、利便性の高いまち」については、「防災」、「生活安全」、「道路環境」、「公共交通」は基本構想の内容と一致しているが、この4項目以外に「災害医療・保健」、「住環境」は基本構想に掲載されていないように思う。</p> <p>【ご意見に対する回答】(事務局) 庁内で検討してきた結果、現時点において、基本構想(基本目標の「〇……………」欄)に記載されていない部門もある。こういった点も含め、今後、基本構想についても検討いただきたい。</p>
25	部門共通	<p>(三輪信哉委員) 同じ内容について、複数の部門に併記することはできないか。</p> <p>【ご意見に対する回答】(事務局) 現行の基本計画でも、2つの施策にまたがって記載しているものもある。今はわかりやすいように1つの部門に記載している。</p> <p>(加藤副部会長) 例えば、安全安心という保障を受ける、サービスを受ける、つまり、市民の側から記載するのか、あるいは行政の部署が何を担当するかという意味合いで記載するのか、どちらの視点で記載するかは大きな問題である。 部門の枠組みを越えるような内容は併記していくことで、行政の部署を越えて立ち向かっていくという感じになると思う。</p>
26	部門共通	<p>(徳久委員) 「～をつくります」という表現が多いが、財政的に見た場合、おそらく老朽化した施設に関しては除却等々も含める必要があると思う。また、統廃合の問題も重要で、そういった課題が前面に出ていないというのは、今の時代にあっていない気がする。</p> <p>【ご意見に対する回答】(事務局) 「市有財産管理」の部門に、「公共施設の長寿命化や統廃合など、効果的・効率的な市有財産の活用を図る」という趣旨で記載している。</p>

No.	部門	委員によるご意見
27	部門共通	<p>(徳久委員) 特に、基本目標「健やかに、生きがいを持って暮らせるまち」などは、行政は行政、市民は市民というように、縦に割られていて、行政側による市民の活動支援という書かれ方があまりしていない。実際、地域包括ケアシステムを構築していく場合には、当然、地域の活動がコアにならないとまわらない部分がたくさんある。すでに活動している市民団体の活性化及び支援という観点がないと、結局、これまでどおり、行政は啓発活動を頑張っていて、市民は市民でやるという形になってしまうので、できれば、そういった観点を全般的に入れていただきたい。</p> <p>【ご意見に対する回答】(事務局) 市民が中心になった活動を支援していくという考え方が含まれていないので、記載の仕方について全般的に検討する。</p>
28	部門共通	<p>(徳久委員) この間の議論で、特に市民委員の方から「多世代の交流」が今後のまちづくりにはすごく大切だという意見が出ていたと思うが、あらゆる世代が教育活動をやりやすく、生涯学習をやりやすくすることは記載されているけれども、交流という観点がありません。障害を持った方も高齢者の方も、みんな助け合ってまちをつくっていくということが、とても大事だと思う。</p> <p>(新川部会長) 多世代交流の視点は、健康づくり、福祉、生涯学習、地域交流といった点で有効な方法であり、そういった取り組みを市民をあげて実行していくということは市民の役割でもあると思うので、少し工夫してほしい。</p>
29	部門共通	<p>(三輪敦子委員) 施設の目的外使用は、予算等の縛りがあるため明記するのが難しいということはあるのか。例えば、学校を文科省関連以外の高齢者や障害者、あるいは地域密着型の活動で使用するのに対してはハードルが高いのか。</p> <p>【ご意見に対する回答】(事務局) 学校施設に関しては、以前に比べて、緩和の方向に動いているということもあるので、以前よりハードルは下がっているというのが現状である。</p> <p>(宮原委員) 学校などの目的外使用のハードルは下がっていると思う。コミュニティ室として教室を借りたりしているが、グラウンドや体育館なども以前に比べて使いやすくなっている。</p> <p>(三輪信哉委員) 学校は、地域の防災拠点であり、環境拠点でもあり、いろんな意味で拠点化できる場所である。目的外使用が拡大すれば、さまざまな企画や事業等が展開できる余地があるように思う。</p> <p>(新川部会長) 公共施設の有効活用、目的外使用ということであれば、どこで扱うかは検討がいるが、健康や福祉の部門でも扱えるし、さまざまな可能性があるように思う。</p>

No.	部門	委員によるご意見
30	部門共通	<p>(加藤副部長)</p> <p>枚方市の団地の状況はどうなっているのか。高齢化が進行し、空き物件が増えてきたので、若者向けに改修したりすることによって世代間交流を生んでいくということも考えられる。</p> <p>枚方市の場合、大阪市に近いので、空き部屋や空きスペースが発生しても埋まると思うが、大阪府の南部では埋まらないところがたくさんあり、深刻な問題と捉え、世代間交流を促進しようとさまざまな取り組みが行われている。枚方でもそうした取り組みを考えれば先進的な取り組みとなるかもしれない。</p> <p>URの物件に市が関わって改修等をするのは難しいが、南部ではそこに手を加えないといけない状況がある。</p> <p>(宮原委員)</p> <p>URであれば、URが自治会を作って自治会活動を行っていると思う。また、枚方市には、小学校区ごとに45の校区コミュニティ協議会と校区福祉委員会があり、校区福祉委員会のプログラムの中には世代間交流ということが大きくうたわれているので、小学校区ごとに校区福祉委員会が予算をもらって世代間交流を促すイベント等を行っている。</p> <p>(三輪敦子委員)</p> <p>URが1960年代に建てた団地、千里ニュータウンを若者向けに改修したというニュースを見た。千里ニュータウンの場合は、URが無印良品と組んで、その製品を使った改修を行っていた。その成果として、実際に若い世代が入居しており、空き部屋が埋まっているということだったので、香里団地や中宮団地等でも使えるのではないかと思う。</p>
31	部門共通	<p>(小原委員)</p> <p>全体的に暗い印象を受ける。癒しという面で、「スポーツ」のほかに、「芸術」などを取り扱っている部門はあるか。</p> <p>【ご意見に対する回答】(事務局)</p> <p>芸術に関わる部門としては、12ページに「文化芸術」の部門がある。基本目標「一人ひとりの成長を支え、豊かな心を育むまち」のもと、「文化芸術」であるとか「歴史文化遺産」といったものに関する取り組みを掲載している。</p>
32	部門共通	<p>(三輪敦子委員)</p> <p>全体として「行政の主な取り組み」の表現に差があるように思う。例えば、「人権」と「男女共同」でも書き方が違うが、やはり、「行政の主な取り組み」としては「医療」の部門のところくらい書き込まれていた方がわかりやすいのではないか。</p> <p>【ご意見に対する回答】(事務局)</p> <p>現状はたたき台として提案している段階であるため、表現に差がある部分については、今後、整理する。</p> <p>(新川部会長)</p> <p>「行政の主な取り組み」の内容について、現状のままでは基本計画として少しバランスが悪いので、検討が必要である。</p>

No.	部門	委員によるご意見
33	部門共通	<p>(徳久委員) 「市民、市民団体、事業者の主な取り組み」には、現在すでにやっているような、記載しやすい内容を書いているというイメージが強い。この基本計画は今後の計画なので、今後取り組むべき内容が記載されていないということは問題ではないか。地域の支援活動を行っているNPOや民生委員など、さまざまな事業主体がそれぞれの活動の中でどのように取り組んでいくかという観点で欠けている。 また、「行政の主な取り組み」には、虐待問題等の抑止や防止のための啓発に向けた取り組みが挙げられているが、潜在的にすでに被害を受けていて、相談したい人たちの需要もかなりあるように思う。今後、潜在需要を吸い上げるための相談体制や支援体制をもっと構築していく必要があるのではないか。しかし、現状では「行政の主な取り組み」には記載されていないので、今後どういった対応が必要なのかという観点から、「行政の主な取り組み」の内容を強化していった方がよいと思う。</p> <p>(新川部会長) 未来志向で考えていくとき、「市民、市民団体、事業者の主な取り組み」の欄は役割分担をしっかりと、相互の連携をしっかりと組んでいくような表現に変えるということも必要かもしれない。あまり具体的に書きすぎると、当事者から困るという声が挙がるという事態も想定できるので、「将来みんながこんなふうにしていただろうね」というようなニュアンスを出していただきたい。「行政の主な取り組み」についても同様に、事業例を参考に課題やニーズに合った方向付けをしてもらいたい。</p>
34	部門共通	<p>(本田委員) 全体を通して、「課題」を数字で示せる部分について示してはどうか。例えば、「学校」の部門に「いじめや不登校などの問題が深刻化する中」とあるが、どの程度深刻なのかが伝わればよいと思う。昨年度のいじめの件数や、不登校の人数などを示している方がわかりやすいと思う。現状の数字は掲載できるところが多いと思うので、検討していただきたい。また、文字が多いので、読んでいて把握しにくい。</p> <p>(新川部会長) パーセンテージや人数がいいのか、あるいはグラフがいいのか、どのような示し方にするかは検討が必要である。 基本計画の最終版では、どんな「課題」があり、その「課題」に対してどのような「取り組みの方向」があり、「行政の主な取り組み」「市民、市民団体、事業者の主な取り組み」は何なのかというものを示していくことを想定している。そのとき、どういった形で現状把握として「課題」を書き込んでいくかについては検討が必要である。</p> <p>【ご意見に対する回答】（事務局） 確かにそのような記載になっている自治体もあるが、本市の現行の総合計画は定性的な書き方をしており、これをベースにたたき台を作成した。 基本的に、数字で示せるものと示せないものがあるので、最終版を作り上げていく段階では、写真を挿入したり、表やグラフを入れたりデザインしていくので、理解しやすいという観点で工夫していきたいと考えている。</p>
35	部門共通	<p>(加藤副部会長) 行政がミニマムな公共サービスを担うという視点で書かれているので暗いイメージになってしまうが、楽しいところは市民が担っていくというような役割分担を想定するのであれば、それを打ち出せるかどうかという議論があってもいいように思う。</p>

No.	部門	委員によるご意見
36	部門共通	<p>(新川部会長) 「課題」や「取り組みの方向」の書き方で読んだときに感じる印象は変わってくるのではないか。全体として、落ちてしまったサービスを最低限度まで引き上げないといけないということがあれば、それから先は市民の側の協力を置き換えるということももちろんあるだろうし、少しでも良い状態をさらに高めていくというところに目を向ければ行政としてやっていくこともある。行政の役割はどこまでなのかという議論もあり、今後、それを基本計画の中で整理しながら、積極的に書き分けていきたい。</p>
37	部門共通	<p>(三輪信哉委員) 行政は、市民の半歩前を歩いて引っ張るとともに、市民の半歩後ろから後押しする役割があるように思う。行政は情報を集積しているプロ集団。他市の事例を集めてくるのは行政の能力であり、それらのノウハウを市民に還元し、市民に寄り添いながら市民を育てていく、社会を成熟させていくという自覚を行政は持ち合わせておくべきだろう。</p>
38	部門共通	<p>(三輪敦子委員) 行政計画は、課題ありきでその課題をいかに解決していくかに目が行きがち。しかし、そこに着目しすぎると、全体として問題が強調され、暗い印象を与えてしまう恐れがあるので、強みにも着目しながら計画を作っていくってはどうか。</p>
39	部門共通	<p>(新川部会長) 「健康」「高齢者福祉」にせよ、「生涯学習」にせよ、全体的に前向きな書き方に変更していくことを検討いただきたい。現状、問題点の洗い出しを起点に計画を策定しているが、良い状態をさらに伸ばしていくというような考え方もいいのではないか。</p>